

骨髓濃縮時にみられたチャンネル内の脂肪層分離と細胞凝集

藤井 敬子¹⁾²⁾ 住居 優一²⁾³⁾ 浦田 知宏²⁾³⁾ 木村真衣子²⁾³⁾ 近藤 匠²⁾³⁾
藤井 伸治²⁾³⁾

- 1) 岡山大学病院検査部
- 2) 岡山大学病院血液・腫瘍内科
- 3) 岡山大学病院輸血部

キーワード：赤血球除去（骨髓濃縮），脂肪層，細胞凝集

骨髓液（液量 1,192ml, Hct 29%, ヘパリン濃度 10 単位/ml）に ACD-A 液 119ml を加えて赤血球除去を開始。採取ラインは色調薄く, Spectra Optia[®]採取プリファレンスの傾向グラフはプリファレンスを挟んで上下に波打つ規則的な曲線で, 採取ポートは真っ白なため, プリファレンスを 45 に下げ採血流量を 80ml/分に減速。一時は安定も 4 サイクル頃と同じ曲線が再出, 有核細胞回収率 18%, Hct 2.5% だった。プリファレンスを 40 に下げ, 傾向グラフは時に 20 を超えて上または下を推移した。6 サイクル後も回収率 26% と低値で施設の終

了基準 40% を下回るため 10 サイクルまで処理を施行し終了した (Hct 2.0%, 有核細胞回収率 37%, 単核球回収率 72%)。遠心分離機よりチャンネルを取り出したところ内部にまだらな脂肪層 (図 A) とパフィーコートの集塊が確認できた (図 B, C)。骨髓バッグと採取産物バッグに脂肪滴はなく, 脂肪成分がチャンネル内に蓄積しコネクタ内での分離に影響を与えていたと予想された。骨髓濃縮時には採取産物のサンプリングにより適切に処理できているか確認を行う必要がある。

著者の COI 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし



FATTY LAYER SEPARATION AND CELL AGGREGATION IN CHANNELS DURING RED BLOOD CELL DEPLETION OF BONE MARROW IN STEM CELL TRANSPLANTATION

*Keiko Fujii¹⁾²⁾, Yuichi Sumii²⁾³⁾, Tomohiro Urata²⁾³⁾, Maiko Kimura²⁾³⁾,
Takumi Kondo²⁾³⁾ and Nobuharu Fujii²⁾³⁾*

¹⁾Division of Clinical Laboratory, Okayama University Hospital

²⁾Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital

³⁾Division of Blood Transfusion, Okayama University Hospital

Keywords:

red blood cell depletion of bone marrow, fatty layer separation, cell aggregation

©2022 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>